

提案説明書

1. 背景

名古屋大学では、「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2022」のもと、エネルギー消費由来のCO₂排出量を2030年度までに51%削減（2013年度比）に取り組んでいる。この内、省エネ・節電の重点事項として“適切な換気を確保した空調運転の実現”が挙げられている。また、換気についてはコロナ対策として、政府からは以下の呼びかけがなされている。

- ・風の流れができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間程度、全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。

2. 現状

我々のいる建物ではコロナ対策として常に居室の扉と廊下の一部の窓を少し開けている。しかし、居室の窓は閉じたままのため**空気は室内を十分に循環せず、ドア付近のみ夏熱く冬寒い状態となり、冷暖房効率も悪い。**



写真：居室の扉解放の様子

3. 解決策

常に半端に窓・ドアを開放するのではなく、効率的に1時間に2回5分間窓を開放し、それ以外の時間は冷暖房中の部屋は閉め切る（難しければ1度ないし講義の空き時間に合わせて）。

4. 課題

- ・時間が決まっていないと換気を忘れてしまう
- ・環境によっては換気を言い出しづらい
- ・大部屋の場合、一斉に行わないと換気効果が落ちてしまう

5. 仕掛けの方法と測定方法

案A) 建物内では決められた時間になると建物内に窓を開ける・窓を閉めるアナウンスを流す。

案B) 建物外では決められた時間になると建物外にのみ**窓を開けて聞きたくなる情報を流すことで換気を促す。**

（生協の割引コードや本日のおすすめ、大学からの情報など）



効果測定方法) 窓に開閉検知システムを設置し、アナウンス実施前後で開閉回数がどのように変化したかをデータ取得し解析する。

6. スケジュールと費用感

方法案A, Bどちらを実施するかで費用が変わると考えられる。なお、測定のための開閉検知システムについては1個当たり2,500円程度である。

案A) おそらくチャイムと同様のシステムで放送自体は可能。放送の実施に関する学内審議と放送用音声の用意を行うため、費用は音声を外部委託しても数万円～十数万円。スケジュールは学内審議スケジュールに依存する。

案B) 学内審議とともに建物外への放送に関し近隣地域との折衝が必要な可能性があり、スケジュールは現時点では判断できない。放送内容の頻繁な更新が必要となるため、録音音声を使用するとしても外部委託は考えづらく、大学関連部局・生協の人員を使うことが想定される。その場合、業務の一環として扱う可能性が高いため帳簿上の費用は発生しない。